

議員（藪 乃理子）

1番、藪 乃理子でございます。

2023年9月議会の一般質問をさせていただきます。

質問は全部で3つで、1つ、奨学金制度について、2つ目、瀬戸内国際芸術祭について、3つ目、不登校についてです。一問一答方式でよろしくをお願いします。

まず初めに、1問目は6月議会で時間がなくなったために質問出来ませんでした奨学金制度について質問をさせていただきます。

現在の多度津町の奨学金制度について、どのようなものがあるかを説明をお願いします。

教育総務課長（竹田 光芳）

藪議員の現在の奨学金制度についてのご質問に答弁をさせていただきます。

奨学金制度については、国や地方自治体、民間の育英団体が実施している制度など様々な種類がありますが、本町の奨学金制度としては返還を要さない、いわゆる給付型の「第1種奨学金」と無利息で貸与する「第2種奨学金」があります。制度内容として、第1種奨学金は高等学校及び高等専門学校第1学年から第3学年に進学又は在学する生徒を対象に月額9,900円を給付します。また、第2種奨学金は、大学及び専修学校に進学又は在学する学生に月額36,000円を、高等専門学校のうち第1種奨学金を受給している第4学年から第5学年までの生徒に月額12,000円を貸与します。募集期間は毎年2月中としており、広報及びホームページにて周知案内を行っております。以上、答弁とさせていただきます。

議員（藪 乃理子）

給付型の奨学金と貸与型の奨学金2種類あることが分かりました。奨学金条例の方を見ますと条件の一つとして、再質問です。多度津町に住居しているものという風にありますが、これは、住民票が多度津町にあるというか、実際、家族や多度津町に本人がいるというのが多分条件だと思うんですけども、県外などに進学する場合だとか、多度津町に住んで生活してなければもらえないものなのかっていうのを教えて頂きたいと思います。

教育総務課長（竹田 光芳）

藪議員の再質問に答弁をさせていただきます。

申請の時は住所はこちらにあることは必須であります。当然、大学生になって県外に出る場合もあります。その方も対象としております。以上、答弁とさせていただきます。

議員（藪 乃理子）

よく分かりました。そしたら次の質問に行きたいんですけども2つ目です。

この2月締切りで応募があった方の人数と採用人数を教えてください。

教育総務課長（竹田 光芳）

藪議員のこの2月締め切りで応募があった方の人数と採用人数についてのご質問に答弁をさせていただきます。

本年2月に実施しました令和5年度多度津町奨学生募集におきまして、第1種奨学生につきましては、定員5名に対しまして3名の応募が、第2種奨学生につきましては、定員4名に対して1名の応募がありました。書類審査及び面接による選考の結果、第1種と第2種の全ての応募者合計4名が、令和5年度多度津町奨学生として決定されました。以上、答弁とさせていただきます。

議員（藪 乃理子）

定員割れしておりますが、マックスでないことが分かりました。コロナ禍があったりして、より奨学金制度の種類っていうのも在り方っていうのも変化していつているので、多度津町の奨学金条例というのを見ましたら昭和61年に制定されてまして、附則も令和元年ということで、また今回見直しをしてもらえると有難いと思います。

それを踏まえまして、3つ目、現在とても多くの種類の魅力的な奨学金が世の中にはたくさんあります。現時点で、多度津町でも考えていらっしゃる新しい奨学金制度の構想などがありましたら教えて下さい。

教育総務課長（竹田 光芳）

藪議員の現時点で考えている新しい奨学金制度の構想についてのご質問に答弁をさせていただきます。

現在、本町においては新しい奨学金制度として、奨学金の返還猶予または返還額を一部免除することが出来る制度について検討しております。

ただし、従来の奨学金制度のもとで実施するには、現在返還中及びこれまでに返還を終えた元奨学生との公平性が損なわれるなど多くの課題や問題点があり、貸与を決定する選考基準に更なる条件を付すなど従来とは別の制度を設ける必要性についても考えております。引き続き、昨今の社会情勢等を鑑みつつ、町独自の奨学金制度の在り方について考えてまいります。以上、答弁とさせていただきます。

議員（藪 乃理子）

再質問をお願いします。先ほど新しい奨学金の構想として猶予を持たせるだとか一部免除ということをお聞きしましたが、一部免除になったり猶予をしてくれるという場合は、どういう条件なのか、今、具体的にありましたら教えて下さい。

教育総務課長（竹田 光芳）

藪議員の再質問に答弁をさせていただきます。

猶予なり返済一部免除の条件についてなんですけど、香川県の奨学金支援制度っていうのもあるんですけど、そういった形の中では、例えば、卒業後、何年間は町内に住んで頂くとか、何年間は町内企業で就職して頂くということをした場合に返還を猶予したり、住んでいる期間については一定額の返済を免除するというような制度

があります。ですので、そういった縛りをつけるというかそういったことを条件にするというのも一つの考え方かと考えております。以上、答弁とさせていただきます。

議員（藪 乃理子）

もう1点の再質問をさせていただきます。

返還を今、怠っている何らかの事情で出来ない方もいらっしゃると思うんですけどもその方に対する対応を教えてください。

教育総務課長（竹田 光芳）

藪議員の再質問に答弁をさせていただきます。

今現在、奨学金の返還をして頂いている方、ちょっと記憶では15名程度いらっしゃるかなと思うんですけど、やっぱり何らかの理由で返済が遅れる方は当然いらっしゃると思います。ただ、ずっと返済していないという方は、確か数えるというかあんまりなかったように記憶してます。ただ、年に一遍、納付書等々を送らせて頂くんですが、その時に遅れている方については、あなたの現在返還して頂いている額はこれだけです。最後の納入はいつでしたか。これだけ遅れてますよっていうような催告書の方をお送りして、出来る限り早めに納付を頂くような形で通知の方をさせていただきます。以上、答弁とさせていただきます。

議員（藪 乃理子）

返還がちょっと滞っていらっしゃる方があんまりいないということで、いらっしゃるんだなとは思いますが、年に1度の納付書、そういうことなんだな。でも払えないって言ってコミュニケーションを取るだとかそういうことっていうのは、ありますでしょうか。再質問です。済みません。

教育総務課長（竹田 光芳）

藪議員の再質問に答弁をさせていただきます。

現在のところ、電話をかけたとか、そういったところまでの催告の方は正直行っておりません。今後ずっと遅れるようなことになれば、奨学金っていうのは奨学基金の中で運用されているものですので、その基金が、あなたが返さないことには基金がなくなってその次の奨学生を奨学することが出来ないということもご理解頂いた上で、奨学金返還の方を求めるようにさせていただきます。以上、答弁とさせていただきます。

議員（藪 乃理子）

これは意見なんですけれども、先ほどの答弁の中に奨学金を払い終えられた方との公平性を考えてっていうのもありまして、返還を終えた方というのは払っている最中とても生活も大変で、色々駆使したりして大変なことをだっただろうというのは理解出来るんですけども、やはり時代の流れだとか変化に沿って、今の時代を生きている家族だとか学生さんの方に目を向けて頂きたいというのが希望でもあります。

次に2番目の瀬戸内芸術祭についてお聞きします。

1点目、まずは予算についてお聞きします。

2022年に行われました高見島の瀬戸芸について、2020年から2022年度の1年ごとの予算とその内訳を教えてください。どれ位の金額がどのようなところに使われて瀬戸芸が成り立っているのかというのを知りたいです。特に、瀬戸芸の実行事務局の方にはどのくらい支払っているのかというのを知りたいです。

政策観光課長（土井 真誠）

藪議員の2020年度から2022年度の高見島の瀬戸内国際芸術祭に関する予算及び内訳についてのご質問に答弁をさせていただきます。

まず前提と致しまして、瀬戸芸は県が中心となり組織されている瀬戸内国際芸術祭実行委員会があり、各市町、福武財団、その他関連団体などにより構成されております。

なお、本町においては、町と瀬戸内国際芸術祭多度津町実行委員会の2つの組織で瀬戸芸の運営に携わっております。

まず、町の予算についてですが、県実行委員会への負担金に加え、町実行委員会への負担金、さらに会期中のみ運行する本島、高見島、粟島の3島を結ぶ臨時航路を運営する船会社への負担金を支出しております。

このうち、県実行委員会への負担金については、瀬戸芸の会場となっている構成市町に対し、毎年度請求されるものです。

2020年度は105万円、2021年度は341万円、2022年度は通常分342万円に加えて、コロナ対策分として131万5千円、合計473万5千円を支出しております。

次に町実行委員会への負担金については、開催年度に向けての環境整備を行うため、2021年度に48万円支出しております。そして開催年度である2022年度にはコロナ対策分を含め900万円を支出しております。

また、臨時航路の運営負担金については、2022年度に39万3,550円を支出しております。

従いまして、3ヶ年の支出合計は19,068,550円となっております。

続きまして、町実行委員会の予算についてですが、先ほどご説明させていただきました町からの負担金により運営されています。

開催年度以外の年度の支出の内訳は、主に環境整備のための消耗品、島への渡航のための船舶運賃、パンフレット等の印刷製本費となっており、支出額は毎年度約80万円です。

開催年度である2022年度の支出の内訳は、案内所の運営スタッフ、警備員、プレハブ設置費用等の委託費が約450万円、事務用品、スタッフTシャツ等消耗品費として約90万円、老朽化しておりました高見待合所の修繕等に約75万円、スタッフの乗船料及びチャーター船借上料として約55万円、京都精華大学への助成金が40万円、

その他シャトルバス燃料費やパンフレット、マップ等の印刷製本費などで、支出合計は約780万円となっています。以上、答弁とさせていただきます。

議員（藪 乃理子）

県の瀬戸芸の実行委員会に対するところと、あと町の実行委員会、そして船の会社に3つのところの負担金が3ヶ年でトータルで2,000万弱かかっているということを知りました。とても国際芸術祭なので、そういう国際規模になるととてもお金が掛かるのかなあと思いつつも、とても大きな額を負担されているなという実感もありました。

次の2点目なんですけれども、次に来客者数と経済効果についてお聞きします。瀬戸芸は、2013年から高見島が参加していると記憶しています。出来れば2013年度の時からと比較対照をしたいので、初回の会からの2013年からの来客者数と、どの位の黒字、赤字決済なのかを教えてください。

政策観光課長（土井 真誠）

藪議員の瀬戸内国際芸術祭の来場者数と経済効果についてのご質問に答弁をさせていただきます。

まず、来場者数についてですが、瀬戸芸2013は全体の来場者数が107万368人、うち高見島への来場者数が24,371人でした。

続きまして、瀬戸芸2016は全体の来場者数が104万50人、うち高見島への来場者数が21,028人でした。

続きまして瀬戸芸2019は全体の来場者数が117万8,484人、うち高見島への来場者数が25,198人でした。

昨年度に開催した瀬戸芸2022は全体の来場者数が72万3,316人、うち高見島及び多度津町本通への来場者数が21,596人でした。

経済効果につきましては、県実行委員会が発表している総括報告書によりますと瀬戸芸全体で瀬戸芸2013が約132億円、瀬戸芸2016が約139億円、瀬戸芸2019が約180億円、瀬戸芸2022が約103億円となっております。以上のように来場者数及び経済効果は増加傾向にありましたが、瀬戸芸2022においては、新型コロナウイルス感染症の影響により減少となりました。しかしながら、本町における来場者数は瀬戸芸全体の会場の中では、減少率は最も低いものとなっております。

また、町実行委員会の収支決算につきましては、瀬戸芸2013では12万9,851円、瀬戸芸2016では157万5,458円、瀬戸芸2019では118万7,554円、瀬戸芸2022では229万8,508円の黒字決算となり、それぞれ全額を次年度へ繰り越しています。以上、答弁とさせていただきます。

議員（藪 乃理子）

回を重ねるごとに、多くの方が来場して頂くこととなったのはよく分かりました。瀬戸芸もコロナですごく大打撃を受けたんだなという実感もありました。そん

な中で、多度津町として瀬戸芸に参加したことで、どのような効果があったと考えていますか。また、どのような効果を期待されての参加でしょうか教えてください。

町長（丸尾 幸雄）

藪議員の瀬戸内国際芸術祭に参加したことによる効果についてのご質問に答弁をさせていただきます。

瀬戸芸に参加した効果としましては様々なものが考えられますが、大きくは3点が挙げられます。

まず1点目に、本町の知名度の向上でございます。

瀬戸芸は国内はもちろん、海外からの注目度が極めて高いイベントでございます。残念ながら瀬戸芸2022では新型コロナウイルス感染症の影響による渡航制限のため、インバウンドの来場がほぼ見込めませんでした。過去の瀬戸芸では本町にも多くの外国人来場者が訪れております。

また、来場者のうち県内在住者の割合も高く、2022の来場者アンケートにおいては、全体のおよそ3割が県内在住者との結果が出ております。先ほど申し上げましたとおり、瀬戸芸2022の来場者は、ほぼ国内からの観光客でございましたので、国内からの来場者のうち約3割が県内からの来場者であったと考えられます。瀬戸芸が、普段、香川県で暮らしている人々にとって、当たり前そこにあるけれどなかなか行く機会がない本町や島を訪れるきっかけとなっているのではないかと推察致します。瀬戸芸がきっかけで、本町や島への関心が高まっていると考えられます。観光や移住、関係人口の創出など様々な観点において、本町を知ってもらうことがまず第一歩であると考えております。この点に関して、瀬戸芸に参加したことは大きな意義があったと考えております。

2点目に、島民の皆様から「瀬戸芸で元気をもたらしている」というご意見を頂戴したことが挙げられます。本町の離島は高齢化率が極めて高く、普段はとても静かな島でございます。3年に1度開催される瀬戸芸で多くの来場者の方々にお越し頂くことで島に活気が生まれ、島民の方々の笑顔が見られました。

最後に、3点目と致しましては、昨年度に開催された瀬戸芸2022では、陸地部側での作品等の展示が実現したことにより、本通地区へ人を呼び込めた点が挙げられます。瀬戸芸は原則として離島での展開となっておりましたが、瀬戸芸2022では本町以外にも陸地部側で作品を展開した会場がいくつかございました。

本通地区に作品が展開されることで、来場者の方々が実際に本通地区を歩き、町並みとその歴史を感じて頂けたことは、有意義であったと考えております。

今後も県実行委員会と連携し、瀬戸芸が開催されることで高見島を始め、町内への誘客を促し、町の活性化と知名度向上が図られることを期待しております。以上、答弁とさせていただきます。

議員（藪 乃理子）

多度津町の知名度の向上と、あとは島の住民の方々、今は約17名、20名弱とお聞きしておりますが、人々の笑顔だったり元気だったりとか、あと、本通りへ誘導出来ているという点に関して、1回の参加、2,000万円弱をかけて、多度津町は効果を得ているということによろしいでしょうか。再質問でした。済みません。

町長（丸尾 幸雄）

藪議員の再質問にお答えをしてみたいです。

色々な催物とかイベントとか、そういうものをする時に、必ず大事なのが費用対効果です。幾らの費用を掛けてどの位の効果が上げられたのか、それを常に考えながら行っていかなければなりません。瀬戸芸の場合には、掛けた費用に対して効果が大きかったと思っております。それは、目に見える経済効果だけじゃなくて、例えば最初の時の高見島での開催の時に高見島の出身の方とか、それから高見島に学校がありました。その先生方とか色んなたくさんの方が高見島に訪れて、そして、手伝って頂いた。色んな催物のことについても手伝って頂きましたし、また誘客につきましても、そういう方々が人を呼んで、そして賑わいを創出して頂いた。そういうことが多度津町の色んな方が来られたということは、最初に私が答弁で申し上げましたように、多度津町の宣伝効果が大きかったということに繋がっていくと思っております。そのことは、今まで3回だったか開催しました。その中においても、色んな方が来られてるっていうことは、これは費用対効果を考えて大なるものがあったと感じております。以上、答弁とさせていただきます。

議員（藪 乃理子）

これは私の率直な意見です。とても色々な要望を町民の方からお聞きして、こういう場所で提案させてもらうんですけども、色々予算の都合とかで検討されることが多いんですけども、瀬戸芸に関して1回の参加で2,000万円掛けてっていうのは、とても太っ腹だなという風には感じました。私も芸術はすごく好きで、仕事にもしていますし、瀬戸芸にも行きます。東の島だとか色んな島に行きますし、肌で感じるのは、東の方っていうのはやっぱり人気があるなというのを実感します。島の付近の宿だったり飲食店だったりっていうのもとても混み合っているし、経済効果っていうのもすごくあるんじゃないかなと思います。やっぱり感じるのが西の方だと人もどんどんちょっと少なくなってきました、これだけ予算を掛けて東と西、同じだけの色々な予算を掛けて、温度差があるなっていうのは参加者として感じます。実行委員会に頼り切らずに西の方、同じ悩みを抱えている西の方の島だとか町と協力して、せっかくこの機会に、こんだけお金を投入しているので、独自にPRだとかして、もっとこっちの西の方にも足を運んでもらえるようにしてもらいたいなと思いました。

それでは、次の4つ目の質問になります。次に京都精華大学との関係についてお聞きします。ある情報によりますと総合プロデューサーの北川フラム氏と京都精華大

学との関係の悪化により、北川フラム氏から多度津町は、京都精華大学に今後頼らないこと、連携をしないこと、協力関係を結ばないことを求められているという風にも聞きました。正確な情報を教えて下さい。

政策観光課長（土井 真誠）

藪議員の京都精華大学との関係についてのご質問に答弁をさせていただきます。

議員のご質問にあります北川総合ディレクターから、京都精華大学と提携や協力関係を結ばないように求められたことはございません。

本町では、瀬戸芸2013から瀬戸芸2022まで、京都精華大学有志による高見島プロジェクトを中心に作品が展開されてまいりました。これは、瀬戸芸2013の開催時に各会場に作家が振り分けられた際に、高見島には京都精華大学が割り当てられたことが契機となっております。瀬戸芸2013においては、複数の会場において大学と連携して作品が展開されておりましたが、現在は、本町と小豆島の一部のみとなっております。

現在のところ、本町における作家や作品展開等についての情報は入ってきておりませんが、県実行委員会において、瀬戸芸2025の開催に向けて準備が進められているところですので、県実行委員会と情報共有を密に図ってまいります。以上、答弁とさせていただきます。

議員（藪 乃理子）

5つ目の質問になります。今後も瀬戸芸に参加されるかという意味についてお聞きします。

瀬戸芸は、毎回とても大きな予算を割いているという風に実感します。多度町独自でその予算を使って、瀬戸芸のようなアートフェスティバルを今まで一緒にやってきた京都精華大学と一緒にやっていくというお考えはありますでしょうか。というのもこれだけの予算がありましたら、とても素晴らしいアートフェスティバルが独自のものが出来るんじゃないかなという思いがあります。よろしくお願いします。

政策観光課長（土井 真誠）

藪議員の今後も瀬戸芸に参加するかという意味についてのご質問に答弁をさせていただきます。

現在、町独自のイベントと致しましては、公益財団法人多度津町文化体育振興事業団主催の「たどつアートフェスティバル」が2021年から実施されております。

こちらは財団の所管事業となりますが、既に独自のアートフェスティバルが開催されており、今後も実施予定と伺っております。

議員のご質問にありました瀬戸芸の予算を使って京都精華大学とアートフェスティバルを開催することについては、令和5年度の施政方針にもお示し致しましたとおり、次回開催である瀬戸芸2025の参加に向けて準備を進めているところでございますので、現時点では考えておりません。

瀬戸芸が開催される2025年には関西万博も開催されるため、関西方面からの誘客方法の検討も必要であると考えておりますので、県実行員会や関係団体と連携し、検討を進めてまいりたいと考えております。以上、答弁とさせていただきます。

議員（藪 乃理子）

町長に対しての再質問、今の答弁を受けての再質問をお願いします。

瀬戸内芸術祭というのは年々国際的評価も高まっていると聞いていますし、私の海外の友人、アーティスト仲間も瀬戸芸、瀬戸芸と言って知名度もとても上がってきていると思います。その中で多度津町という点で見るとどうなのかと思います。もちろん喜んで来てくれる方が1人でもいらっしゃると、とてもうれしいという実感はありますけれども、先ほどからもあるように予算だとか費用対効果ということも考えなくてはならないのかなと思います。先ほども町長、他の方の議員さんの答弁の中でも、いつも財政の健全化を考えていらっしゃるという風にも聞きましたし、色んなことが優先順位をつけて予算を組まれていると思うんですけども、その優先順位という風なことを考えて、たくさん町民から色んな要望が出てると思います。それを差し置いて、やはりこのまま瀬戸芸っていうのに、こんなにお金を使って、今まで、先ほどご説明して下さった効果、3点の効果を得るっていうことが、必要なのかなという風な疑問もありますので、お考えをお聞かせ願います。

町長（丸尾 幸雄）

藪議員のご質問に答えてまいります。

この瀬戸内国際芸術祭は3年に1度ありますので、開催から次の開催までの3年間の間に、例えばART STOUCHIとか諸々のイベントをやります。そういうものも全部含めた費用になりますので、決して1回だけの瀬戸芸が2022年に開催されたら、その1年間だけの予算ではありません。掛かった費用ではありません。瀬戸芸から瀬戸芸の間に掛かった費用ですので、これは、たくさんの方がART SETOUCHIっていう、そのイベントの時に、たくさんの方々が来てくれます。そして、瀬戸芸はその島の復権、そして地域の島の活性化ということが、まず効果を出すところなんで、それに関しましては費用対効果は出ていると思っています。例えば、高見で行っても佐柳島の方にもたくさん来てくれます。その足を延ばしてくれるということになりますし、瀬戸芸の期間中は本島、高見、栗島、3つのところで連携をしながら、船の運航もしております。そういう中で地域、島の活性化というのは多度津町の高見島だけじゃなくて、この瀬戸芸を行なっている島々の活性化になっていると思っています。全体で考えて、どういう費用対効果があるのか多度津町で行っている瀬戸芸だけではなくて、今、県で行っている瀬戸芸を考えて多度津町にどの位の効果があるのか、それを考えていかなければいけないと思っています。そういう中においては、費用対効果は上がっていると思っています。また、芸術家を呼ぶ時、色々工夫をしているんですけども、多度津町は最初から京都精華大学の方に来て頂いております。多度津町も京都精華大

学が素晴らしい学校ですので、そこと連携協定、学術、芸術に関する連携協定を結んでおります。そういう中で、私どもも京都精華大学の方には行きますし、それぞれの例えばアートフェスティバルの時にも色んな方が来て、色んな作品を作ったりはしています。そういう繋がりというのは大事に今もしているんですけども、ただ、芸術作品っていうことを考えた時に余りにもマンネリという言葉を使って妥当なのかどうか分かりませんが、瀬戸芸にも外国の方がたくさん来ております。芸術家ですね。2022の時も外国人の芸術家に高見島で作品を展示して頂いております。そういう中で、ひとつの芸術サークルに頼るのではなくて、もっともっとたくさんの方々から来て頂く。候補者はたくさんあった方がいいんで。その中で、特に外国人の芸術家・アーティストも含めて可能性を探っていく。そういう意味で、京都精華大学だけではなくて、他にももっともっとたくさん。外国だけじゃなくてね。たくさんの方がいらっしやいます。そういう方々の作品を展示して頂くということも大事なのかなと思って今、進めているところですので、決して北川フラム総合ディレクターから言われて、何だかんだということではありません。京都精華大学との関係は、そんなものではありませんので。そこもちょっと、なかなか今のご質問の中で気になりましたので。そこも少し述べさせて頂いて、答弁とさせていただきます。よろしくお願ひします。

議員（藪 乃理子）

町長の今の答弁で、現状で島の活性化ということを目的とした瀬戸芸、費用対効果が十分に上がっているという認識でいらっしやるということが分かりました。瀬戸芸の質問については終わらせて頂きます。

3つ目の質問です。不登校についてです。

多度津町だけではなく、色んな地域で不登校になっている生徒さんの話を聞きます。不登校の生徒さんもその親御さんもとても不安な思いを毎日しながら過ごしていると思っております。そこで、まず1つ目、多度津町には現在どれだけの不登校の生徒さんがいますか。それぞれの小学校、中学校で教えて下さい。プライバシーのことがありましたら、答えられる範囲でお願い致します。

教育長（三木 信行）

藪議員の現在どれだけの不登校の児童・生徒がいるかについてのご質問に答弁をさせていただきます。

不登校は何らかの心理的、情緒的、身体的あるいは社会的要因・背景により、登校しない。あるいは登校したくても出来ない状況にあるため、年間30日以上欠席した者のうち、病気や経済的な理由による者を除いたものと定義されています。

令和4年度の不登校児童・生徒数は、豊原小学校4名、四箇小学校1名、白方小学校2名、多度津中学校29名です。なお、多度津小学校は0名です。

令和5年度は、8月の時点で豊原小学校3名、多度津中学校20名です。なお、多度

津小学校、四箇小学校、白方小学校は0名です。以上、答弁とさせていただきます。

議員（藪 乃理子）

今の答弁で不登校というのが、年間30日以上欠席した者のうちという定義をお聞き、ちょっとびっくりしました。私も中学校の時に、ちょっと心理的なもので、受験が嫌だということだったんですけども、30日以上欠席したなということがあるので、私もちょっと不登校の対象だったのかなとか思ったりも今しました。

2つ目の質問に行きます。不登校の生徒さんの中で、多度津町の教育支援センターに通っている生徒さんが、どれだけいらっしゃいますか。こちらもそれぞれの小学校中学校で教えて下さい。また、プライバシーのことも考え、答えられる範囲でお願いします。また、指導員さんは何名いらっしゃいますか。

教育長（三木 信行）

藪議員の多度津町教育支援センターに通っている児童・生徒についてのご質問に答弁をさせていただきます。

現在、教育支援センターに関わっている小学生は1名、中学生は6名です。その内、小学校の児童については、数回の相談や通所を経て、現在は小学校へ通っています。

指導員は所長を含めて2名です。また、事務職として任用している職員も子どもに関わることがあります。以上、答弁とさせていただきます。

議員（藪 乃理子）

小学生が1名、中学生が6名ということで、先ほどの不登校の生徒皆さんが、通所している訳ではないと思います。その他の生徒さんっていうのは、学校に行けない生徒さんっていうのは、どういう風に過ごされているのでしょうか、教えて下さい。再質問です

教育長（三木 信行）

藪議員の再質問に答弁をさせていただきます。

教育支援センターに通っている児童・生徒以外の子どもたちが、まず、家庭でということもあります。それから学校へ来て別室で過ごしている子どももいます。で、別室で過ごしているんだけど、それはずっとではなくて、短い時間を過ごす子もおりますし、先生との関係で、例えば中学校であれば図書室、今、新しい図書室があって、奥の方にちょっと学習スペースがあるんですが、そこで過ごす子どももおります。それで様態は様々です。それから家庭で過ごす子どもに対しては、学級担任とか、それに関係する先生が連絡をとったりしながら、学校の繋がりを十分保つようにしております。そういう過ごし方をしております。以上、答弁とさせていただきます。

議員（藪 乃理子）

次に、支援センターから復帰する生徒さんもいますか。またその際に、提出をす

る学校復帰願いには、生徒さんの復帰したいという意思も反映されるでしょうか、教えて下さい。

教育長（三木 信行）

藪議員の教育支援センターから復帰する生徒についてのご質問に答弁をさせていただきます。

教育支援センターから学校に復帰出来るようになった生徒については、令和4年度は2名、教育支援センターの通所を経て登校出来るようになりました。

また、学校による指導の結果、年度末までに登校する又は出来るようになった児童・生徒は、令和4年度は中学生で6名いました。

入所届や退所届の手続も必要ですが、一人ひとりの考え方や状況に合わせた対応を大切にしているため、書類を出さずに体験入所という形の生徒も多い状況です。復帰に関しては、「ここから復帰」というように、はっきりしたものではないため、一人ひとりの様子を見ながら考えていくようになります。入所の際は本人、保護者、学校、教育支援センターで相談の上、入所となります。学校へ戻る際には、本人や保護者の意思が一番大切となりますので、十分に反映されることになっています。以上、答弁とさせていただきます。

議員（藪 乃理子）

一人ひとりの様子を見ながら考えていくということは、とても大変なことだと思います。先ほどの指導員も2名だったりだとか、やっぱりどの町でも人員確保しているのがとても重要になってくると思いますし、専門医だとかの配置だとか充実も今後も引き続きお願いしたいと思います。それでは先ほどとちょっとかぶりますが、学校にも支援センターにも通えない生徒さんに対する対応をどのようにしているかを教えて下さい。

教育長（三木 信行）

藪議員の学校にも支援センターにも通えない生徒に対する対応についてのご質問に答弁をさせていただきます。

学校にも支援センターにも通えない児童・生徒につきましては、学級担任を中心に、子どもと関りのある教員が電話連絡や家庭訪問をし、学校と繋がっている状態を続けられるようにしており、放課後の時間帯に保護者と本人が学校に来るという場合もあります。また、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーへ繋ぐようにし、希望に応じて保護者や本人が相談できる環境を作っています。また、ケースに応じては、町健康福祉課、児童相談所、医療等の学校外の機関と連携を図りながら、保護者、家庭を支援していくこともあります。さらに、これまでも実施をしてきた自宅や別室と教室をオンラインで繋ぎ、事業内容や学級の様子を視聴出来るようにするなど、ICTを活用したオンライン学習も有効な支援の一つとして、さらなる充実を図りたいと考えています。以上、答弁とさせていただきます。

議員（藪 乃理子）

オンライン授業を活用するですとか校内サポート体制の強化をするということはよく分かりました。それに際して、お子さんやご家族の方もとても不安だったりもするとは思いますが、とても手が掛かると言ったらおかしいんですけど、とても時間とか信頼関係を結んでっていう風に慎重になっていくと思うんですけど、やっぱり先生の今、働き方だとかってものを考えた上で残業だったりだとか放課後の部活動等というのに、すごく先生の負担も増えなければいけないと思いますので、色んなその専門家等の人員確保っていうのが、今後にも必要になってくると思いますという意見です。以上、終わります。